

4月小児科学会での取り組みが新聞に掲載されました。

11 | 2024年(令和6年)5月15日(水曜日)

# ガザの危機、見過ごせない 医師団体が相次ぎ停戦要求



健康 まっぶ

パレスチナ自治区ガザで戦闘や飢餓による医療危機、人道危機が深刻化していることを受け、世界医師会(WMA)や国際小児科学会(IPA)は決議や声明で、持続的な停戦を求めている。

日本医師会など各国の医師会が加盟するWMAは4月、韓国のソウルで開いた理事会で決議を採択した。ガザとイスラエルの

全市民の生命保護、人質の即時解放、食料など人道支援のため、持続的な停戦を求めるといった内容だ。

一方、IPAの声明は、罪のない子どもたちを殺し、戦争の手段として飢餓を利用することは犯罪行為だと指摘。「子どもたちの命を脅かす暴力の現場を目撃して黙っているわけにはいかない」として、全ての小児科医が自らの政府に対し、停戦と平和の実現に向けて行動するよう要求することを呼びかけた。

これを受け、4月に福岡市で開かれた日本小児科学会の総会で、大阪市の小児科医、高松勇さんら会員11人が、学会として即時停戦を求める声明を出すよう要請した。

高松さんによると、その際、国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)の清田明宏保健局長のメッセージを紹介。「乳幼児の10%が急性の栄養失調」「A型肝炎など急性感染症が増加」「トイレが800人に一つ」といった状況が総会参加者に伝えられた。

声明を出すかどうかはその場では決まらなかったものの、IPAの声明について会員に周知することになったという。

イスラエルの攻撃で負傷し、病院で治療を受ける子ども=3月、パレスチナ自治区ガザ南部ラファ(AP=共同)

これは、2024年5月15日 佐賀新聞

他に沖縄タイムスなど全国の地方紙で掲載されました。